



人通りが増えた魚町銀天街

街がネットやCMになりリアル世界の立派な情報発信源であることを感じさせられた一幕であり、発祥から今まで、心温まる北九州市民を育んできた立役者として感じた。

小倉駅から向かい上り、記商店街をめぐると、これまで風情を感じさせる巨過市場がある。北側の横断歩道で北九州市が調査した1日当たりの歩行者通行量

わり出そうとしている。これまで店舗が河川にせり出す形状ゆえに豪雨によっては浸水してきたこと、護岸や建物の老朽化が進んだこともあり、本格的な再生へのかじを切ることとなる。16年に公表された整備事業に係る基本計画から5月日が流れ、21年度の着工、27年度の事業完了を目指すプレスリリースがなされた。

報道によると、営業を継続しながら進められ、大きくはアーケード、駐車場棟および

商業棟で構成し、店舗数は100を超え、現在の巨過市場から目と鼻の先とはいえず集客には欠かせない駐車場については、区画整理による敷地の減少を建物の高層化によって補う予定である。

市場ならではの狭い通りに密集する店舗、人と商品とが本場に近くに感じられるのが醍醐味である。郊外の大規模商業施設が吹き抜けをあしらった天井が高いことを考えれば、建物の形態が時代と共に変わることは疑いのない事実である。広域な商圏を有する施設は一握り、大規模商業施設の運営者によっては、もはや大都市を除き建物を積み上げる時代ではないと話される方も存在する。

運営の意思決定が鍵

まして、ネット通販の隆盛でリアル店舗は今後閉鎖が進む可能性がある。コト消費を建物内に取り入れるなどの試みもあるが、リピーターを

最後に、顧客へのイメージ戦略としては、ハード面の施設の新しいさはもちろん武器となるが、巨過市場ではソフト面である100超の店舗がまとまってどのような運営の意思決定をしていくかが鍵となる。100年といえど「10年ひと昔」を10回経てきたわけで、社会環境しかり、変わって当然のことではあるが、残すべきものもある。市民の温かい心を育み、その象徴である施設となることを願うばかりである。(北九州支所／不動産鑑定士・松尾春仁)

アーケード商店街の発祥は北九州とされる。その魚町銀天街、昨今では昼夜人通りが増え、時間によっては、あふれかえった人をかき分けながら歩かなければならない。消費者の流れが郊外型大型店舗へ向かうと、老舗専門店から雑貨・ドラッグストア・飲食店などを中心とした店舗構成へ一部移り変わりが見られるものの、プレミアム商品券の販売といった集客への工夫にも余念がない。熱気に沸いたラグビーワールドカップでは、市をあげて応援したウェールズの横断幕が商店街にも飾られ、それを見て公開練習に足を運んだ方々もきつと多かっただけではない。

公開練習当日では話題となった北九州市民によるウェールズ国歌の斉唱をほじ

市民の心を育む街の象徴に

アーケード商店街の発祥地

～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第35回 福岡県北九州市

一般財団法人 日本不動産研究所

は、1万人を超えた02年から徐々に減り、以降07年から18年まで約7000人台が最頻値となっている。市民に広く知られたり、いろんな商品を扱う巨過市場の競争力としては、一定の顧客をグリップしていることがうかがわれる。

北九州の台所

市場の歴史は古く、大正時代の初期に誕生し、強制撤去を余儀なくされた戦中を挟むにせよ、現在に至るまで約100年を経過した。その「北九州の台所」として親しまれてきた当該市場が今大きく変

商業棟で構成し、店舗数は100を超え、現在の巨過市場から目と鼻の先とはいえず集客には欠かせない駐車場については、区画整理による敷地の減少を建物の高層化によって補う予定である。

市場ならではの狭い通りに密集する店舗、人と商品とが本場に近くに感じられるのが醍醐味である。郊外の大規模商業施設が吹き抜けをあしらった天井が高いことを考えれば、建物の形態が時代と共に変わることは疑いのない事実である。広域な商圏を有する施設は一握り、大規模商業施設の運営者によっては、もはや大都市を除き建物を積み上げる時代ではないと話される方も存在する。



大正時代の初期に誕生した巨過市場